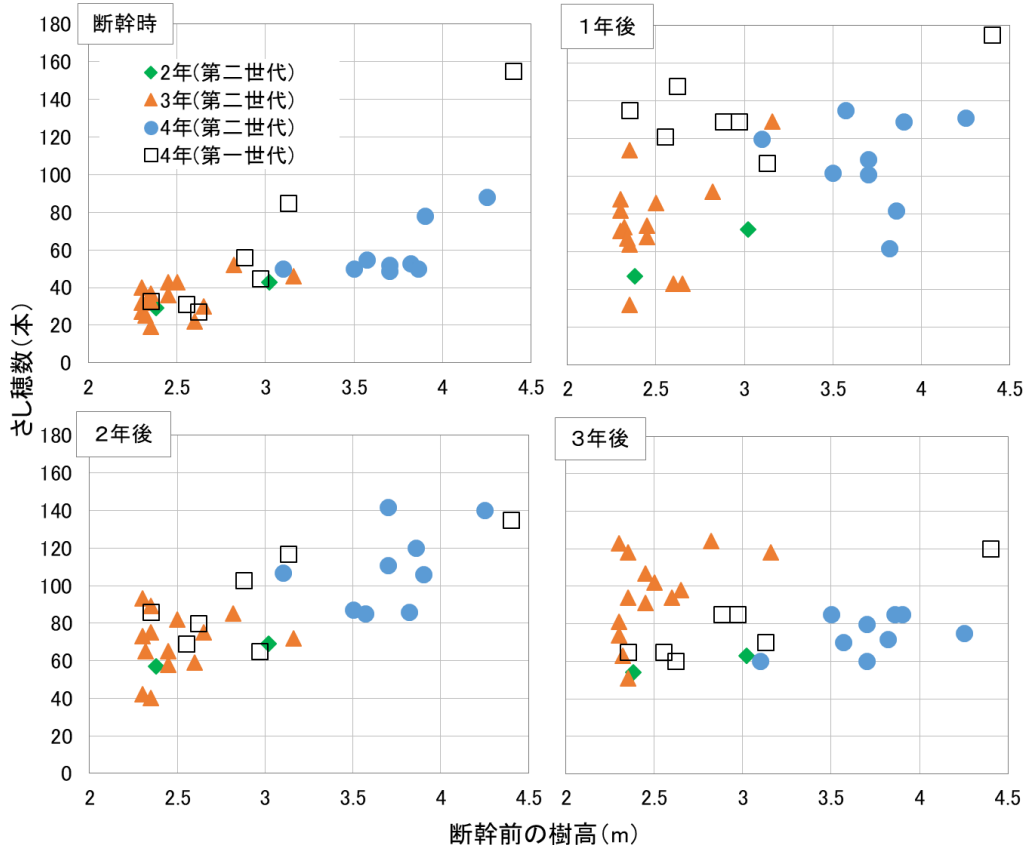


3. スギ第二世代精英樹（エリートツリー）の特定母樹を仕立てる際の注意点

- 初期樹高成長が旺盛なスギ第二世代精英樹の樹型誘導開始の年数
【植栽から断幹までの年数が異なる採穂台木の断幹前の樹高と断幹時、1年後、2年後および3年後のさし穂数の関係】（大塚ほか 2022）



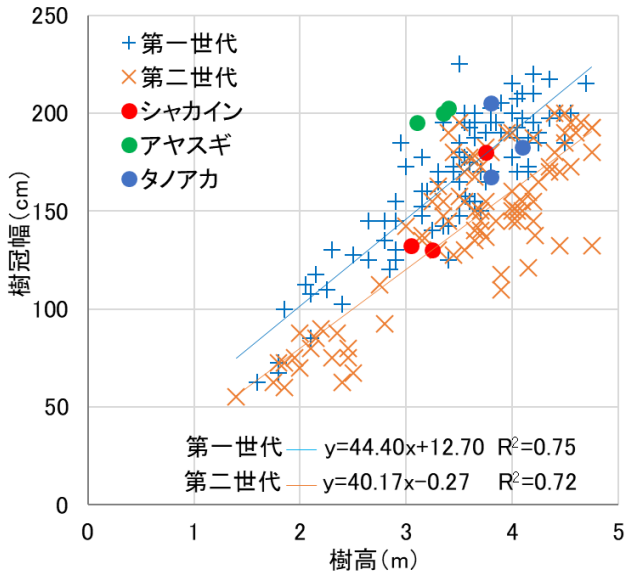
- 断幹時のさし穂数は断幹前の樹高と高い正の相関（植栽木の大きさに依存）します。
- 初回断幹から2年かけて萌芽枝の発生の拠点となる部位を作る樹型誘導を行った結果、断幹から1年後および2年後のさし穂数についても断幹前の樹高と正の相関がありました。
- 萌芽枝が多くなった3年後のさし穂の数は、断幹前の樹高と相関せず、植栽後3年で樹型誘導を開始した試験木は植栽4年で開始した試験木と比較して、平均さし穂数は有意に多い結果でした。

【注意点】

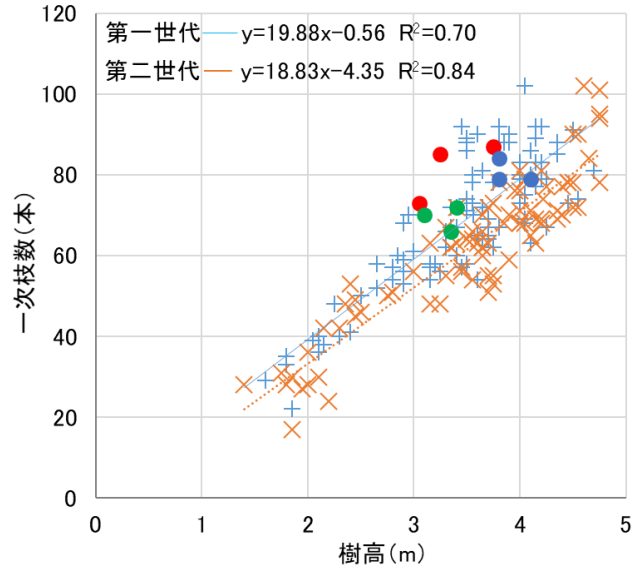
- 植栽後に長く据え置き、樹体を大きくしてから断幹したとしても必ずしもその後に多くの萌芽枝（さし穂）が得られるわけではありません。
- 一定程度の樹高を超えた段階で早めに断幹することが萌芽枝の早期獲得に効果的であると考えられます。

○第一世代精英樹と第二世代精英樹のスギ特定母樹若齡木の樹冠の違い

【樹高と樹冠幅の関係】



【樹高と一次枝数の関係】



(大塚ほか 2022)

現在指定されている特定母樹について、同程度の樹高の植栽木を比較した場合、

- 第一世代精英樹はより幅広（長い枝が多い）、枝数が多い樹冠を有する傾向がありました。
- 初期の樹高成長が旺盛な第二世代精英樹は、より狭く（長い枝が少ない）、枝数が少ない樹冠を有する傾向がありました。

【注意点】

- 早期に採穂台木への樹型誘導を行う場合、特に第二世代において断幹前の自然樹形の枝数が少ない場合や枝長が短い場合があることから、樹型誘導初期に過度な剪定を行わないように注意する必要があります。
- 過度な剪定は、樹勢を衰えさせたり、目標とする樹型にするために新たな一次枝の伸長を待つ必要が生じ、樹型誘導の期間を要することとなります。